

「聴力障害者の基本的な理解」と「聞こえない人への配慮」

社団法人 北海道ろうあ連盟

★聴力障害者の基本的な理解

○コミュニケーションの方法はいろいろです。

聞こえなくなった年齢、聞こえの程度（残存聴力）、育ってきた環境などによって、どのような方法を使うのか、またどのような手話を使うかが異なります。

- 手話 … 気持ちや考えを伝えるのに最も適した方法です。
- 指文字 … 手指で表す音の記号です。外来語やカタカナ文字、人名、手話単語に無い音声日本語を表す場合に使います。
- 口話 … 口の動きで言葉を伝えたり、口の形を見て言葉を理解する方法です。
- 補聴器 … 音を大きくして聞くための補装具です。障害の程度により、効果のある場合とない場合があります。
- 筆談 … 紙に書く、手に書く、空間に書く等があり、大事なことを間違いなく伝えるには良い方法です。漢字かな混じりで簡潔に書くと伝わりやすいです。

★聞こえない人への配慮

・呼ぶ時は

手招きをするか、または後ろから呼ぶ場合は軽く肩をたたいてください。補聴器を使ってもすぐには分からないことがあります。

・話す時は

手話や口の動きなどを見るので分かりやすい位置で顔を相手に向けて話してください。下向きや横向きでは分かりにくいのです。

・「耳の聞こえない人」の言い方は

ろうあ者、ろう者、耳の不自由な人、耳の聞こえない人、聴力（覚）障害者、中途失聴者、難聴者などの言い方があります。いずれの言い方でも人として尊重し合う気持ちが大切です。

・緊急時は

火事や地震のときなどは、ろうあ者にすぐ伝えてください。急病や事故の時は、ろうあ者にかわって119番などに連絡してください。空港や地下鉄、駅などの緊急アナウンスも積極的に伝えてください。

・学校や地域、会社での集まりでは

ろうあ者が参加する時は、事前に資料を渡したり会議の内容をメモで伝えるなど、本人の希望を確認して行ってください。

手話通訳者がいる時でも手話を見ながらメモを取ったり資料に目を通すのは困難なのです。

・手話通訳を頼む時は

ろうあ者が会議などに参加する場合の手話通訳者の派遣依頼は、ろうあ者本人がするか、主催者側がするかを本人と話し合い、一番良い方法で行うようにしてください。

・一緒に歩く時は

ろうあ者と一緒に歩く時は、聞こえる人が車道側を歩いてください。ろうあ者は危険を音で察知することが難しいのです。